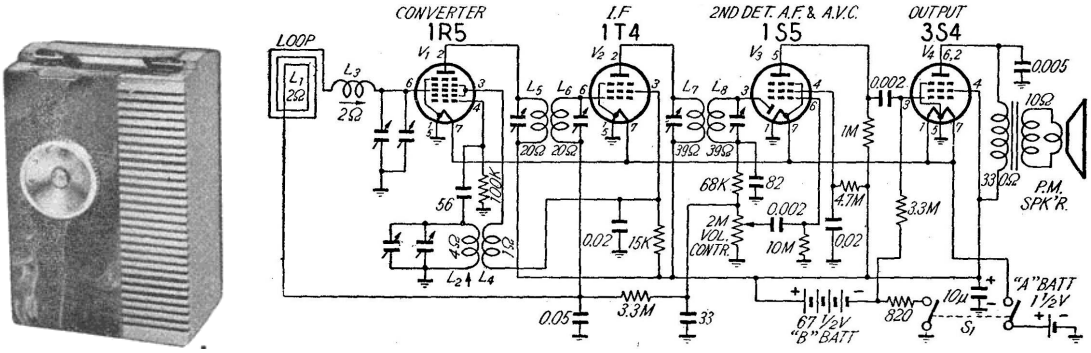
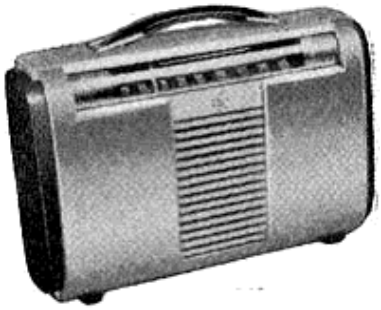
RCA のポータブルブル 1945 年より ····

1945 年といえば第二次世界大戦の終った年で，当時 RCA が発売したポータブルが第 1 図にごらんのような DC 専用のものであったが，以後続々と進駐してきたアメリカ軍の兵隊さんにこれらを見せられた日本人は大いに驚き，それから今日のポータブル全盛時代とはなったのである。



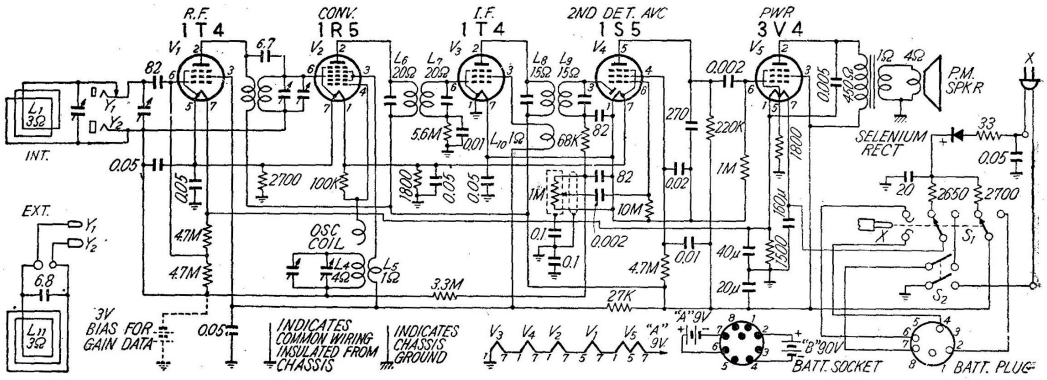
第 1 図　1945 年にできた DC オンリーの 54B5 型

54B5 は相当小型ではあるが，現在のにくらべると厚みは大分厚かったようである。電池は 1.5V(0.25mA) と 6.75V(8.5mA) で，インストラクションによれば間歇的に使って A 電池は 5〜6 時間，B 電池は 25〜40 時間もつということになっている。出力は無歪 0.05W，最大 0.12W で，スピーカーは 2 × 3(インチ) の楕円型が使ってある。ループ・アンテナは裏蓋についている。外形写真の右側へスピーカーが入り，左側が同調用ツマミ，左上にボリューム・コントロールとなっている。真空管は縦に横向きにとりつけてあり，それと B 電池が合わさってちょうど向って左側にならべてある。

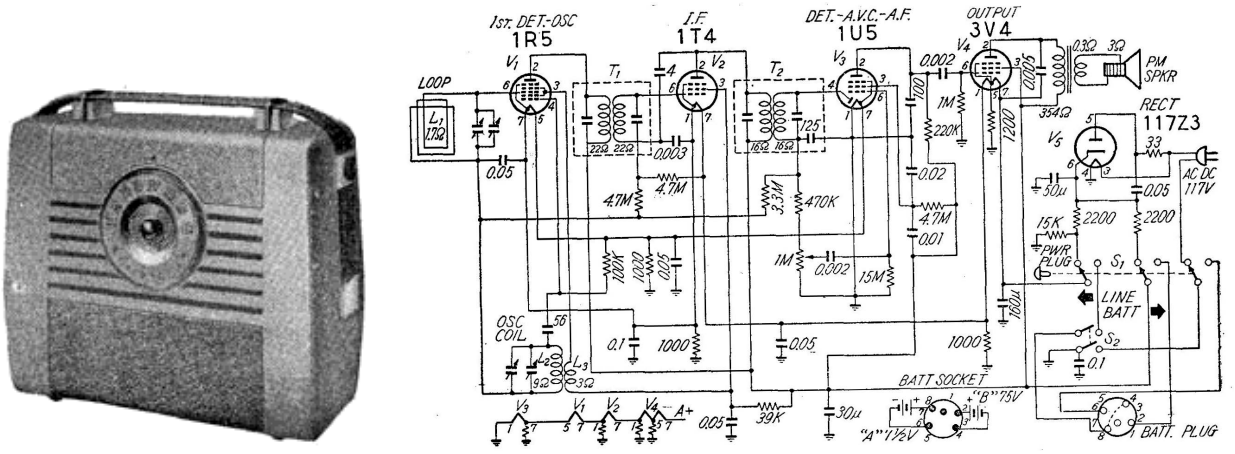


第 2 図　1946 年の交直両用型 66BX

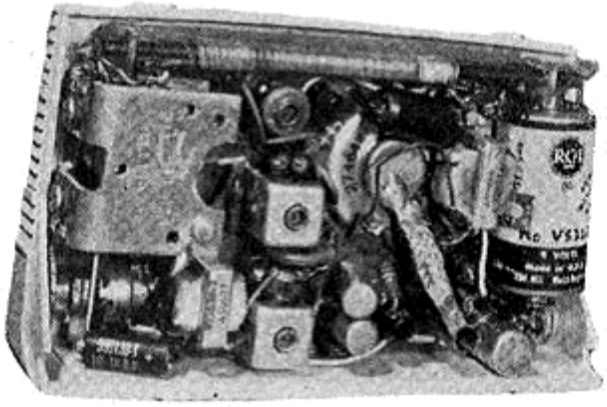
やがて交直両用のものがあらわれ第 2，3 図に示すものは RF つき 5 球で，整流にはセレンを使っていた。この外形は $13\frac{1}{4}\times 9\frac{1}{2}\times 5\frac{1}{2}$(インチ) でスピーカーは 4 × 6(インチ) という割合大きいのを使っている。バッテリーがケースの下部に横わり，シャシーは普通のラジオのように真空管上向きになっている。向って右が同調ツマミで左が SW と音量調節である。出力は無歪で 0.23W で，消費電力は 14W ということになっている。この辺から我が国でもポーターブルを作る動きが始まった。



第 3 図　66BX 型回路図



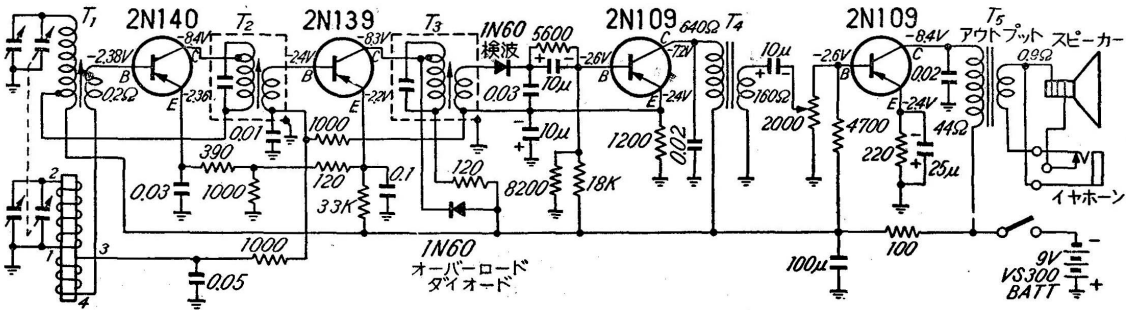
第 4 図　1948 年に出た整流管使用の 8BX54 型



第 5 図　最新型の超小型ポータブル 8-BT-8

まだポータブル用セレンの小形化が充分でなかったせいか，第 4 図の 8BX54 型から mT の整流管 117Z3 が登場している。外形寸法は 11 × 9½ × 5(インチ) で，4 インチの円型コーンのスピーカーを使っている。出力は無歪で 0.15W，最大で 0.25W となっており DC 使用の場合は少しこれより少ない。シャシーは逆さに上からつるしてあり，真空管などは下向きになっている。このへんではまだループ・アンテナを使っている。

これから大体，現在市販にあるものと同じようになってきたようである。アンテナはバー・アンテナが用いられるようになり，部品もどんどん小型化されてきた。電池の消耗の少ないこととか，超小型なことなどがうたわれ，大いに一般に浸透した。さらにプリント配線，トランジスターなどの実用期となった。



第 6 図　8-BT-8 型回路図

第 5，6 図は最新型の超小型で 14.0 × 8.4 × 4.1(cm) で 500gr. というもの。トランジスターにプリント配線，それに直径 2⅛ インチ，厚さ 1.6cm という RCA お自慢のスピーカーを使ってあり，現在の段階ではこれほどのものはまだないであろう。(『無線と実験』1957 年 3 月号グラビヤに既載)。

(『無線と実験』1957 年 4 月号)

PDF 化にあたり，

- 旧漢字は新漢字にし，
- 旧かなは新かなにし，
- 読みにくい文字にはふりがをつけた．

なお，これ以外の『無線と実験』の記事をはじめ，無線関係の文献は

ラジオ温故知新：http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html

を参照してほしい．